

令和7年度 指導・評価計画 技術家庭（技術科分野）2学年

124世田谷区立砧中学校

年間指導計画			観点別評価の評価規準		
月	単元	時間	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	ガイダンス	1			
5	・生活や社会と生物育成の技術 ・さまざまな生物育成の技術 ・生物育成の技術による問題解決 ・これからの生物育成の技術	5	<ul style="list-style-type: none"> ●生物の育成には、特性・習性など科学的な原理・法則が関係していることを説明できる。 ●生物の育成環境を調節する方法等の技術の仕組みを説明できる。 ●作物、動物及び水産生物の成長、生態などについての科学的な原理・法則を説明できる。 ●生物の育成環境を調節する方法などの基礎的な技術の仕組みを説明できる。 ●育成計画に沿い、観察や検査の結果を踏まえ、安全・適切に育成環境の調節や、作物の管理・収穫ができる。 ●これまでの学習を踏まえ、生物育成の技術の役割や影響、最適化について説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●生物育成の技術に込められた不空を読み取り、生物育成の技術が最適化された経緯に気付くことができる。 ●生活中から生物育成の技術に関する問題を見いだして課題を設定できる。 ●条件を踏まえて課題の解決策を構想し、育成計画表等に表すことができる。 ●育成計画に基づき、記録したデータと作物の生育状況などを比べながら、合理的な解決作業を決定できる。 ●自らの問題解決の工夫を、生物育成の技術の見方・考え方によらして整理するとともに、課題の解決結果を記録したデータに基づいて評価する。 ●よりよい地域社会の構築を目指して、生物育成の技術を進めて工夫し創造しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●進んで生物育成の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けようとしている。 ●自分なりの新しい考え方や捉え方によって、解決策を構想しようとしている。 ●自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう改善・修正しようとしている。 ●よりよい地域社会の構築を目指して、生物育成の技術を進めて工夫し創造しようとしている。
6					
7	・生活や社会とエネルギー変換の技術 ・電気の供給と利用 ・エネルギー変換の技術による問題解決 ・運動の利用 ・これからのエネルギー変換の技術	22	<ul style="list-style-type: none"> ●自然界にあるエネルギー源が変換され利用されることや、熱機関の仕組みを説明できる。 ●自然界にあるエネルギー源から電気エネルギーへの変換方法と安定した電力供給の仕組みを説明できる。 ●算出した変換効率に基づき、エネルギー変換、効率及び損失の意味や省エネルギーの重要性を説明できる。 ●電源の種類とそれぞれの特徴、電気の特性等の原理・法則に基づき説明することができる。 ●電気エネルギーを光や熱、動力、音・信号へ変換する仕組みを説明することができる。 ●電気回路を回路図を使って表すことができ、電気回路の特性や電流の流れを制御する仕組みについて説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●防災用品に込められたエネルギー変換の技術に関する工夫を読み取り、エネルギー変換の技術の見方・考え方によらして整理するとともに、課題の解決結果を記録したデータに基づいて評価する。 ●発電システムは、エネルギー変換効率だけでなく、稼働率やコスト、環境負荷等にも配慮して設計されていることに気づくことができる。 ●開発者が、製品等の目的に合わせて、機構の要素や構成を変更していることに気づくことができる。 ●持続可能な社会を実現するために、エネルギー変換の技術を評価し、適切に管理・運用の仕方や改良の方向性について考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●進んでエネルギー変換の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けようとしている。 ●持続可能な社会の実現に向けて、今あるエネルギー変換の技術を工夫して活用したり、新たなエネルギー変換の技術を想像したりしようとしている。
9					
10					
11					
12					

		<ul style="list-style-type: none"> ●電気機器の定格に基づき、安全に利用するための仕組みを説明することができる。 ●工具等を適切に用いて、電気機器の保守点検を行うことができる。 ●動力を伝えるための仕組みとそれらの特徴を説明することができる。 ●運動を変化させる技術の仕組みや、力や運動を保存し利用する技術の仕組みについて説明することができる。 ●機械部品を固定する方法や、共通部品の規格について説明することができる。 ●機械を適切に保守点検することができる。 ●エネルギー変換の技術を利用することで実現される持続可能な社会を説明することができる。 		
1	• 生活や社会と情報の技術 • 情報の伝達	7	<ul style="list-style-type: none"> ●身の回りの生活や社会でのコンピュータの活用について理解している。 ●情報のシステム化に関する基礎的な仕組みを説明できる。 ●情報の表現、記憶、計算についての科学的な原理・法則や情報のデジタル化に関する基礎的な技術の仕組みを説明できる。 ●情報の使いやすさやわかりやすさに関する工夫を理解し、メディアの特性を踏まえたデジタル化の方法や情報を利用するための基本的な仕組みを説明できる。 ●情報通信についての科学的な原理・法則と情報通信ネットワークの構成に関する基礎的な仕組みを説明できる。 ●情報ネットワーク上で情報を利用する仕組みを説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●身の回りにある、情報の技術を利用した機器やサービスに込められた工夫を読み取り、情報の技術の見方・考え方を気づくことができる。
2				<ul style="list-style-type: none"> ●進んで情報の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けようとしている。
3				
主たる評価材料		定期考查・小テスト・授業内の作品・実技テスト	プリント・レポート・活動報告書・定期考查の記述内容・授業内の作品など	レポート・主に作品を中心に作業・授業の取り組み・活動報告書と作品